

よる幕引きを図ったが、当の本人がテレビカメラの前で「これからお小言を貰いに行きます」とニヤつくにいたって万事休す。菅改造

内閣初の閣僚辞任となった。自身を辞任に追い込むことになった。挨拶を、柳田氏はこう結んでいる。「年末に向け、何がおこる

かわからない面もあります。いろいろな頑張っているかと思っております。自分の「上がり方」だけは、見通していたのか。

菅仙谷前原蓮舫よ、

せめて自分の言ったこと

ぐらいい思い出せ! ジャーナリスト 上杉隆

諫早湾、情報公開、事務

姿が本質なのか。

ている。

所費問題……野党時代は猛烈な批判を繰り返していた菅政権の閣僚たち。その勢いは政権に就いた途端に消えてしまった。彼らには変節したのか、それとも現在の

柳田法相が更迭された。菅首相は「辞任」だと強弁するが、官邸で辞表を書かせたという事実が何より事実上の「更迭」を物語っ

FNN産経の合同調査では民主党の支持率は一九%にまで落ち込んでしまった。すべては自業自得とはいえず、前夜まで辞任はないとしていた柳田法相のみならず、

菅首相や仙谷官房長官の「二枚舌」もお粗末すぎる。だが、こうした「変節」はこの内閣において驚くに値しない。ありとあらゆる公約は反故にされ、なんともやりきれない徒労感を連日のように日本中に与えてくれている。

何といっても変節漢の筆頭は首相の菅直人である。首相側近が語る。「前日の昼まで『柳田さんは守る』と言っていた総理が、朝にはまるで別人のようになり、法相切りに動いたのです。夜、伸子夫人から『あなたは総理なのよ。柳田でも仙谷でも更迭すれ

ばいいのよ。それでリーダーシップを見せ付けてやりなさいよ」と言われ、豹変したようです」閣僚の進退という政権の命運を握る決定も、夫人の叱咤激励によってなされたとなると、一体、日本の首相は誰なのかということになる。

「暴力装置」は仙谷氏(上)の信念だ

日中関係の原点を読む!

文字の大陸 汚穢の都

明治人清国見聞録

草森紳一(著)

明治維新直後は、日本人が、西洋だけでなく中国大陸へも実際に足を踏み入れた時代であった。それまで書物の上でしか接したことのなかった中国で、日本人は何を見て、何を感じたのか。尾崎行雄、原敬、伊藤博文ら錚々たる人物たちの残した「中国見聞録」を詳細に読み解き、近代日本人の「中国観」の原点を探る試み。



上海に生きた日本人

幕末から敗戦まで

陳祖恩(著)

大里浩秋(監訳)

志士・高杉晋作らの上海視察に始まり、第二次世界大戦の終わるまで、上海に滞在した十万人を超える日本人たちの軌跡を、当時をしのげる写真やエピソードを交え、商業・工業・教育・建築・文化活動・日中間の交流など全般にわたる日中双方の史料から丹念にたどる。写真・図版約百五十点。



ご注文は: 03-3295-6231 (販売部)
http://www.taishukan.co.jp

大修館書店 定価は税込

「工事の差し止め訴訟を党として、あるいは現地のみなさんと協力して提起できるかどうか検討している」

今から十三年前の九七年、旧民主党代表の菅氏は、国の諫早干拓事業について、「訴訟」という強い言葉を用いて批判した。

それでも収まらない菅氏は、テレビカメラを引き連れて諫早の現場の視察に向かった。そこで潮受け堤防を管理する農水省の役人を立たせ大声で罵倒し始めたのだ。

「水門を開けろ！ 開けろって言ってんだろ！」

当然ながら、作業服の現場の役人に開門の権限はない。その一年前まで与党の閣僚だった菅氏なら百も承知のはずだ。しかし、そうした激しい政治姿勢（パフォーマンス）はその後も変わらなかった。

新民主党の二度目の代表時代の〇三年には、「諫早干拓の即時中止」を党のマニフェストに盛り込み、〇六年には、現地の漁協関係者との対話で、「事業費の二千五百億円が無駄になっ

てもやり直すべき」と述べ、「長期の開門調査は絶対にやらなければならぬ」との約束も交わした。さすがにここまで徹底すれば有明海の漁民たちも信じたことだろう。

そして〇八年、佐賀地裁が排水門の常時開放の判決を下すと、「画期的な判決。国に控訴断念を求め

最初はいつも強気の前原外相

長崎県の漁協関係者（有明町）も呆れる。

「必ず開門するから、と約束してくれたあの菅さんは、いまの首相とは別人かい？ 結局、オレたちも利用されたということだろ」

テレビカメラを引き連れて、劣勢に立たされた人間を罵倒するのはどうやら菅内閣の専売特許らしい。

〇七年三月九日、民主党の蓮舫参議院議員ら四人は、松岡利勝農水相の議員会館事務所をアポなしで突撃訪問した。目的は事務所経費で購入したとされる「なんとか還元水」をその目で確かめるためだ。当然、テレビ

る」と菅氏はダメ押しの大見得を切ったのだ。

だが、威勢のいいのはここまで。首相になって最初の国会で、菅首相はこう言い放ったのだ。

「政府与党の検討委員会の判断を踏まえ、農相が今後の方向性を検討しており、農相から話を聞きたい」（衆議院本会議）

カメラを引き連れている。流し場に立った蓮舫議員が「水道はここにしかないですわ」と指差せば、同行議員も「浄水器は付いていないじゃないですか」と指摘する。

閣議のため不在の松岡農水相に代わり秘書が応対するも、さすがキャスター出身、カメラの前だと燃える女には太刀打ちできない。五分弱の押し問答の末、窮した秘書が「今日のご勘弁ください」と答えてようやく「中継」は終わった。

蓮舫氏は五日後の参議院予算委員会でも激しくこの問題を追及した。

「水道水は飲み水ではないという意味でしょうか？」

こうやって始まった蓮舫議員の追及は実に見事なものであった。

「一世帯の平均で二十七万円。つまり松岡大臣は一般家庭の二十一世帯分の年間光熱費を計上しているんですよ。この額が普通の人のお金の感覚と同じだと思っ

ていますか？」

松岡農水相は防戦一方になる。さらに蓮舫議員が追い込む。

「安倍内閣の閣僚に求められるのはまさにお金の部分のクリンキだと思いません。大臣はこれまでの答弁で自分はクリンキだということを一〇〇%自信を持っていますか？」

その後、松岡大臣は自殺した。その三年後、「クリンキでオープン」な菅内閣が発足し、蓮舫議員は行政刷新大臣に就任した。

を、目黒区の自宅兼事務所の経費に計上するという不手際が発覚した。これは政治資金収支報告書の記載に関する国会の申し合わせ事項に反する。

「法的には問題ないと思っています」

こう述べた蓮舫大臣だが「誤解のないよう、これからは資金管理団体で支出していきます」と述べ、政治資金収支報告書の修正を示唆している。

これによって蓮舫大臣も、「一〇〇%の自信でクリンキ」と言い続けることが難しくなった。仮に松岡氏が生きていたら、いったい何と言ったのだろうか。

自殺といえは、民主党にも若手の代表的論客だった永田寿康代議士がいた。

〇六年、ライブドア元社長の堀江貴文氏が武部自民党幹事長の次男に送金するよう指示した

偽メール事件でも最初は強気だった



「120%クリーン」ではない



「偽メール」
といういわゆる事件の責任を取り、議員辞職、その後自殺した。

永田氏は、

途中で二セ物であることに気づいた周囲からの忠告も聞かず、「前原民主党の得点になるんですよ」の一点張り、「前原代表も自信をもってやれと言ってくれています」といい続け、訂正しなかった。

結局、わかっていなかったのはこの永田氏と前原代表だけだった。そして偽メールだと気づいてからも、前原代表の無責任な振る舞いが問題を大きくして行く。

最先端医療セミナー

◎再生医療特別セミナー開催!

育毛・再生のお役立ち究極情報

頭皮のケアから育毛の再生治療まで(幹細胞移植)今回、健やかな髪を保つ頭皮ケアとして、毛根のお手入れから育毛剤の選び方、さらには自分の血液の中の細胞を利用する育毛の再生治療として(夢の幹細胞移植)まで、育毛・再生に役立つ究極の情報をわかりやすくお話いたします。

- 講師: 星野 泰三氏(フルミエールクリニック院長) 板羽 忠徳氏(中央理美容専門学校講師)
- 日時: 平成22年12月7日(火) 17:15受付 17:30開始 19:00終了
- 会場: 統合医療ビル3階内
- 定員: 先着20名様
- 費用: 1,000円

ガンと戦う全ての人に

◎がん治療セミナー

第33回 ビレッジレクチャースクール

- 免疫力を上げてガンに克つ。
- 講師: 星野 泰三氏(フルミエールクリニック院長) 日下部 淑美氏(管理栄養士)
- 日時: 平成22年12月18日(土) 開始時間14:00(詳細はお問い合わせ下さい)
- 会場: 統合医療ビル3階内
- 対象: がん患者様およびそのご家族
- 定員: 先着20名様
- 費用: 1,000円

●問い合わせ先: 統合医療ビル3階フルミエールクリニック予約センター TEL03-3222-1088(受付時間 月~土曜(祝日除く)10時~17時)

好評発売中!
星野式
温熱リンパ球治療

◎進化した免疫治療

骨・リンパ節・肝臓・転移
ガンに注目の治療法を説く



衝撃の
未来医学
万能細胞医療
星野 泰三 監修
寺尾 友宏 著

今まで修復できなかったダメージを治す。今まで治らなかった病気が治せる。
万能細胞医療の可能性は無限大です。

現在、万能細胞治療が可能な病気、症状を詳細解説。
B6判120ページ 税別1470円

B6判176ページ
●税別1470円

病院 院長
医学博士 星野泰三 著

メタモル出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-2
振替00140-2-22218 http://www.metamor.co.jp
TEL.03(3234)5743

書店にない場合は上記までご連絡ください。(送料350円)

これは現在閣僚になって変わらぬ前原誠司という政治家の悪しき習性だ。ハッ場ダム、JAL問題、尖閣ビデオ問題、中国問題など、前原外相は最初はいつも強気だ。その後、旗色が悪くなると沈黙し、最後は他者に責任を転嫁するといふお決まりのパターンを今だに繰り返している。

今月、参院予算委員会では「自衛隊は暴力装置だ」と答弁した仙谷氏は、官邸の司令塔であり、伸子夫人を除けば、菅官邸の最高実力者になっている。

仙谷氏の「暴力装置」発言は、学問上、問題ない。だがそれが憲法上、自衛隊を軍隊と認めていない政府

の閣僚の発言となると事情が違ってくる。だからこそ仙谷氏は即座に発言を撤回し、謝罪したのだろう。しかし、本心ではまったく気にしていないようだ。

○三年、衆議院憲法調査会会長代理として仙谷氏はこう述べている。

「専守防衛の自衛隊という暴力装置を憲法上位置付けて、それを国会でどうコントロールできるのかということ憲法上書かないとまづいのではないか」(毎日新聞○三年五月三日)

○五年には、早稲田大学の

の大隈塾の講演の中でも「暴力装置」と語っている。東大時代の学生運動仲間が回想する。

「仙谷はいつも都合のいい時に闘うのをやめるんだ。東大闘争だって司法試験に合格したために離脱し、安田講堂にも行ってない。当時の思想は、裁判闘争に生かしただけだ。とくにスターリンの闘争の仕方を徹底的に研究していた。いまヤツはそれを官邸に持ち込んで権力闘争に使っている」

スターリン型の闘争は情報を独占することによって権力強化を図る。それは「尖閣ビデオ」の公開を断固拒んできた仙谷長官の姿勢に如実に現れている。

「閣」にすぎない。野党時代に約束した、記者会見のオープン化、官房機密費の公開、情報公開法の策定を何一つやっていない。薬害エイズ問題で情報公開を迫った菅首相も、自分たちの権力維持と保身のためならば、国民の知ることなど二の次なのだ。

「国民の知る権利を保障するための制度を実現するため、早急に情報公開法改正案を国会に提出する」

○五年、この談話を出したのは政調会長時代の仙谷氏である。

もはや菅内閣に多くは求めない。せめて、自分の言ったことぐらいは思い出し